

「希望の賛美礼拝」の恵み(2018. 11. 18)

「あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。

月日がたってから、それを見いだすだろう。」(コヘレト 11:1)

10月28日(日)、東北のダークダックス「モリゴーフォー」を迎え、今年2回目の特別賛美礼拝を捧げた。深くスイートな響きが会堂一杯に響き渡った。平均年齢71歳の人生の年輪を刻んだ男声4重唱だ。結成して46年になるという。仕事が忙しくしばらくブランクはあったものの、時間的に余裕が出てきた今、結成時の熱情はいよいよ深まり、全国各地を巡り、神の愛を歌に載せて運んでいる。今回、ピアニストとナレーター(2人とも女性)を加え、多くのレパートリーの中から、水野源三氏の詩集「十字架の愛」から作曲された歌を歌い上げてくれた。集われた一人ひとりの琴線に触れる響きだった。また、サプライズとして礼拝終了後には「銀色の道」「里の秋」など聞かせてくれた。恵みの時であった。



「恐れるな。語り続けよ。・・・この町には私の民が大勢いるからだ。」(使徒 18:10)
主イエスのみ言葉を信じて、祈りを合わせ、新聞折込、チラシ配布、HPや案内はがきなどで周知を図り、ひとりでも多くの横手市民にこの「希望の賛美礼拝」を届けようと努めた。私たちの祈りに応えて、イエス様は36名の参加者を与えて下さった。教会員が17名、モリゴーフォー関係9名、他教会員3名、近所の方、はじめての方、久々の方などその他7名である。特に嬉しかったのはその中に若者が2名いたことである。ただ高校生は7月の特別賛美礼拝の時と同じように、ゼロだった。各校門前で4日間チラシを配ったが、無駄な試みだったのだろうか？そんな思いがかすめる。しかし、後日HPのアクセス数を見たら、チラシ配布後の数日間、結構伸びているのである。ネットで玄関先まで来ていたのである。上掲のみ言葉は約束する、「月日がたってから」と。だから、これからも「パンを流す」ことを続けていこうではないか！

この恵みを力にして次のクリスマス礼拝、イブ礼拝に向かいたい。特にイブ礼拝では特別演奏者として、サクソフォン奏者とピアニストを迎えることができた。いよいよ祈りを熱くし、準備に取り掛かりましょう。そして皆さんお一人おひとり、できる範囲で是非奉仕に加わって下さい。宜しくお願い致します。